

県港漁建・全漁建長崎支部

業務効率化・生産性向上へ

『働き方改革目指す iコン講習会』開催



システム」の構築と活用』で第1回インフラメンテナンス大賞(農林水産大臣賞)を受賞した(一社)全日本漁港建設協会、施工管理のシステム・アプリを取り扱う㈱建設システムから講師を招き、それぞれのテーマについて講演。

京都サンダー㈱企画部の田辺直子部長は、『建設Dを活用した現場技術業務の効率化』と題し、その業務内容や意義について解説し



京都サンダー㈱田辺直子部長

た。建設Dとは、ITスキルとコミュニケーションスキルでオフィスの現場をつなぎ、主に現場担当者の書類業務を担うことで、長時間労働の軽減や、現場担当者の本来の業務である品質管理や人材育成、技術継承に集中出来る環境を整えることを目的としたもの。

建設Dの対象者は、事務職員や産休・育休から復帰した女性技術者、既存社員のキャリアアップ、新規雇用

者などで、建設Dから現場に興味を持ち技術者を目指す人もいるという。田辺氏は、CADオペレーターや営業事務から建設Dとして活躍している企業を紹介し、新しい職域の可能性や効果を語った。また、5、6月に長崎

で実施した同育成講座(オンライン講習)についても講座内容を説明するとともに、「工事書類についてもっと知りたい」「積算は売上に繋がる大切なものだ」と理解できたなど、受講者20人の喜びの声を届けた。

(一社)全日本漁港建設協会の田原正之業務課長は、同協会が開発した漁港施設点検システムについて講演。

同システムは、スマートフォンを活用しアプリによる施設点検や結果閲覧など、点検者と施設管理者の共有化を容易にするもの。2014年から開発をはじめ、15年に神奈川県・秋田県・鳥取県、17年

には長崎県で実証試験が開始されている。田原氏は、同システムの概要と開発の背景を語り、実際にスマートフォンを用いてアプリのインストールから点検方法・入力方法を一つ一つ丁寧に解説した。

このほか、㈱建設システム営業部九州営業所の中園敬太氏が、自社のスマートフォンプリやソフトウェアを紹介。3次元データや電子小黒板などを活用した施工管理効率化を提案した。



根々会長

(一社)長崎県港湾漁港建設協会(根々真悟会長)が(一社)全日本漁港建設協会長崎支部(同支部長)は8月27日、サンプリエールを会場に『令和2年度働き方改革を目指すiコンストラクション講習会』を開催。受講した協会会員・県職員・県OB港友会約80人は、建設

現場の業務効率化と生産性向上に向け、熱心に耳を傾けた。あいさつに立った根々会長は、人材不足や長時間労働など建設業界を取り巻く環境について語り、「働き方改革の中で我々が求めるものは、高齢者と女性活用。この2つをどうしていくか。本講習会であらためて勉強してほしい」と受講者に呼び掛けた。

講習は、今年5月、長崎で建設ディレクター(以下、建設D)育成講座を初開講した京都サンダー㈱、『一漁港施設点検

